1. 調査報告概要表

作成日 平成21年10月14日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2794900023
法人名	社会福祉法人 成和会
事業所名	グループホーム菊水苑喜志の郷
所在地	富田林市桜井町2丁目1835番地 (電話)0721-20-1171

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成21年9月28日

【情報提供票より】(平成21年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年11月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	19人	常勤	11人, 非常勤 8人, 常勤換算 15人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての 2階 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	40,000円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300円	昼食	600円
	夕食	600円	おやつ	0円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成21年9月1日現在)

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	9名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.9歳	最低	67歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大阪府済生会 富田林病院、医療法人正清会 金剛病院、 医療法人いなほ会 くまざき歯科
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

南河内地域において高齢者福祉の分野で20数年間地域貢献を果たしてきた社会福祉法人が、地元行政の要請を受け2年前に設立した認知症対応型グループホームです。当ホームは3階建て2・3階部分に設置され、1階部分には小規模多機能型居宅介護事業所があります。また、同法人の特別養護老人ホームが近くにあり行事等連携した運営が期待されます。当ホームは田園地帯にあり、近くに公園や市民会館、幼稚園等が点在しており地域交流を進めやすい環境にあります。職員は利用者の意向を大切にす支援を進め、墓参りや帰宅願望がある利用者への一時帰宅支援、リハビリ通院支援などに取り組んでいます。また、主食・副食は利用者の好みで選べるようにしています。利用者の重度化や利便性を考慮し、機械入浴装置や居室にトイレを完備するなどの工夫をしています。職員は熱心で研修にも意欲的に参加しており、今後さらにサービス向上が期待できるグループホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	初回外部評価受審のため、前回の評価内容はありません。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は外部評価の受審についての日程や意義について、会議等で職員に説明しています。職員は評価の意義を理解した上で自己評価票作成に取り組んでいます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	主な討議内容は事業所概要説明、前年度の活動報告、入居者状況報告、地域連携の促進について、利用者が重度化した場合の支援について、周辺地域の高齢者の生活状況について、利用者の食事について、来年に植える蓮華畑への招待について、火災の際の対応について、消防避難訓練について、運営推進会議に参加されている利用者への配慮(文字の拡大、聞こえやすい工夫)について等、意見交換が行われ、利用者への対応など早速改善に取り組むことを明確にしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族が来られたら健康面や暮らしぶりを詳細に報告しています。また、職員から声かけをしてできるだけ意見や要望を出してもらっています。必要に応じて電話で近況をお知らせすることもあります。小口金銭管理については、個別金銭出納帳を記載し家族の求めがあれば提示していますが、家族が確認されたというサインや押印はもらっていません。月1回、預かり通帳の該当ページをコピーし、出金内容を記載して家族に送付しています。苦情相談窓口を明示し、苦情相談受付箱を設置して迅速な対応を心がけています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	小規模多機能型居宅介護事業所が1階に併設され、地域の利用者との交流があります。また、地域祭りの際はお神輿や太鼓台がホーム前を通るなど、行事を通じての交流も始まっています。今後は自治会への加入申し入れを予定しており、設立後2年目のホームとして地域との連携を進めつつあります。

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自にグループホームの理念を明示し、その柱の一つに「地域に根ざしたホーム作りに努めます」と掲げています。また、「ご家族や地域との結びつきを大切にし、開かれたホーム作りに努めます」と具体化し、地域密着型サービスとしての理念をつくりあげています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は分かりやすく記載しホーム玄関等に掲示しています。職員はフロア会議やカンファレンス等で理念を共有し、実践するよう努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	小規模多機能型居宅介護事業所が1階に併設され、地域の利用者との交流があります。また、地域祭りの際はお神輿や太鼓台がホーム前を通るなど、行事を通じての交流も始まっています。今後は自治会への加入申し入れを予定しており、設立後2年目のホームとして地域との連携を進めつつあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は外部評価の受審についての日程や意義について、会議等で職員に説明しています。職員は評価の意義を理解した上で自己評価票作成に取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の規程を定めています。運営推進会議は本年度から開催していますが、3ヶ月に1回程度の開催となっており、開催内容については記録を残しています。会議メンバーには利用者及び家族代表が含まれています。会議で出された意見については業務に反映するよう努めています。	○	運営推進会議については2ヶ月に1回、年6回程度の開催が求められます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	設立当初から市との連携は強く、運営に関する報告や相談などを細やかに行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来られたら健康面や暮らしぶりを詳細に報告しています。また、必要に応じ電話で近況をお知らせしています。小口金銭管理については、個別金銭出納帳を記載し家族の求めがあれば提示していますが、家族が確認されたというサインや押印はもらっていません。月1回、預かり通帳の該当ページをコピーし、出金内容を記載して家族に送付しています。	○	利用者の近況報告では定期的なホーム便りの発行や送付などの工夫が望まれます。利用者の預かり金については個別金銭出納帳を定期的に家族に提示して確認してもらい、確認サイン・押印を得ることが求められます。また、金銭出納状況を家族等へ送付する場合には購入した領収書またはコピーの添付を行うことや、送付した事実の記録（発信簿の活用等）が求められます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来られたら職員から声かけをして、できるだけ意見や要望を出してもらうようにしています。また、日常的に利用者の希望や願いを聞きサービス向上に努めています。苦情相談窓口を明示し、苦情相談受付箱を設置して迅速な対応を心がけています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内職員の異動は若干名で最小限にしています。新任職員はなるべく早く利用者と信頼関係が築けるように、利用者と接する時間を多くしています。職員の異動の際には家族等へ紹介していますが、タイミングがあわず一部家族へ説明ができていない場合があります。ホーム便りの発行等で職員異動の紹介を行うなどの工夫が期待されます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修及び外部研修を受講できるようにしています。また研修予定を提示して参加者を募るなど、職員の資質向上に努めています。外部研修、内部研修を合わせて年6回以上の受講記録があり、認知症接遇・感染症・応急手当等が含まれています。研修記録は職員間で共有していますが、一部共有サインの無いものがあり、徹底することが期待されます。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は地域の同業者連絡会や研修会等に参加し、情報交換をするなどに努めています。また、施設間で相互に見学会や体験学習を行い交流に努めています。大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加入し、積極的に研修や会議に参加するなどして、サービスの質の向上に努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前見学や面接などは本人も来られるよう家族に依頼しています。見学時には利用者が納得されるように説明や対応に努めています。また入居されている利用者とは交流できる機会を設けています。場合によっては体験入居を勧め、利用者がホームに馴染んでいただくよう支援しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	職員は利用者の日常生活の経験談を通じて調理や家事等について学んだり、慣習等を教えてもらったり、相互に支え合う関係があります。また、誕生日を祝ったり、行事を共に楽しんだりして喜びあう関係を築いています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話の中で利用者の意向を聴取しています。また希望を出しにくい利用者には具体的に実物を示しながら選んでもらうようにしたり、表情やしぐさを見て対応したり、利用者の状況を見て支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意見を聞き、カンファレンスを行い、介護計画書を作成しています。また、介護計画書に沿ったケア内容の記録があります。介護計画書は利用者、家族等の了解を得て署名・押印をもらっています。介護計画書は職員間で共有していますが、一部職員の共有サインの無いものがあります。今後はサインを徹底することが期待されます。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月～6ヶ月毎に見直しを行っています。見直し時期以外にも必要時には見直しを行い、利用者の変化に応じた介護計画書を作成しています。アセスメント表、モニタリング記録、カンファレンス記録を作成しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の意向や状況に応じてかかりつけ医療機関への通院、リハビリ通院などの支援を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者がそれぞれの、かかりつけ医師（医療機関）で引き続き医療が受けられるように、一人ひとりの希望を尊重した支援をしています。往診・受診支援や結果の報告などについても希望に応じて対応しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合の終末支援は、体制が整っていないため、実施しないことを明確にした支援をしています。重度化した場合の対応については、早い段階から本人や家族等の意向を汲み取り、かかりつけ医と相談しながらできる限りホームで暮らせるよう支援し、困難な状況になれば医師の指示により入院等の対応をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを大切にされた対応や言葉かけをしています。個人情報についての取り扱いは職員雇用時に秘密保持を義務付ける内容を提示し契約事項としています。記録等の保管は慎重にしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はありますが、利用者の都合や希望を尊重し、予定は多少ずらしても自由に過ごせるようにしています。お墓参りや一時帰宅願望を支援するなど、できるだけ希望に添うような支援をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同法人で委託契約をしている事業所から給食として運ばれたものを、ホームでは利用者の状況に応じてきざみ食にするなどの調整をしています。主食や副食は希望を確認し選択食にしています。利用者は食事作りには参加できませんが、週1回程度おやつ作りを楽しんでいます。職員は利用者の状況を見て食事介助をしながら、談笑して共に食事を楽しんでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者に入浴回数の希望を出してもらい、週2～3回程度の入浴ができるように援助しています。利用者が自分の体調に合わせて入浴日を決めることについては尊重していますが、入浴を好まれない利用者にもそれとなく入浴を勧め清潔が保たれるようにしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	外出、買物、お墓参り、おやつ作り、歌を歌うことなどを楽しんだり、洗濯物たたみや後片付けなどの役割を果たしたりして、利用者それぞれが変化のある日課を過ごせるように支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	公園や近くの池周辺の散歩、買物、リハビリに出かけるなど、それぞれの外出頻度は違いますが、戸外に出かけられるように配慮しています。重度化された場合や外出を希望されない利用者など、ホーム内で過ごされる割合が増える傾向にあります。	○	医療的な配慮からの外出制限を除いて利用者全員が週1回以上外出の機会が持てるような支援が求められます。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全性の確保を理由に終日エレベーターに鍵をかけています。時には暗証番号を覚えて外出される利用者もありますが、日常的には自由に外へ出ることはできません。職員間では鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組む意欲があります。	○	安全性を確保しながら、鍵をかけないケアに取り組むことが求められます。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練を行っています。そのうち1回は消防署の協力を得ています。避難訓練は主に夜間の設定で、避難場所には2階の広々としたベランダを選び現実的な対応をしています。ホーム内には非常用飲料水の備蓄をしています。備蓄はホーム内と特養施設内に分散して保管していますが、ホーム内にも非常食の配備が期待されます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立で、バランスの取れた食事を用意しています。食事摂取量は3食とも確認、水分摂取量も一日を通じて大まかに記載しています。水分摂取量が少ない利用者には好きな飲み物を勧めるなどの工夫をしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	3階建て2・3階部分にホームがあり、2階には広々としたベランダを設置してくつろぐ場所や菜園スペースを作っています。居間と食堂、廊下などが広くゆったりとした雰囲気味わえます。トイレ、浴室などの共有空間も広く、ベランダからは公園や田畑、幼稚園などが一望でき開放感を味わうことができます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室に窓があり、明るく清潔に整えられています。利用者は家族の写真、机、イス、タンス、衣装ハンガー、テレビ、時計、ぬいぐるみなど馴染みの物を持ち込んで過ごされています。職員は利用者が自宅から馴染みの品を持参されるように勧め、これまでの生活を尊重した居室設定をしています。		